

## 第013講

Mr. Jun Ikeido, whose recent novel has won the Naoki Prize, is from Gifu Prefecture.

(岐阜聖徳学園大)

今回のテーマは「関係詞節の訳し方」です。

My mother, who lives alone, has just called me.

- ① 「私の母は、ひとり暮らしをしているが、いま私に電話してきた。」
- ② 「ひとり暮らしをしている私の母がいま私に電話してきた。」

関係詞の前にカンマがある場合（非制限〔非限定〕用法と呼ばれます）は「前から訳さなければならぬ」（①のパターン）と思っている人がいますが、それは誤解です。②のように訳しても構いません。それどころか、関係詞節が文中に埋め込まれている場合は②のように前にかけるほうが訳しやすいことが多いです。実際、読解系の学参や過去問集の訳例、文芸翻訳でも学芸翻訳でも「文中に埋め込まれている関係詞節は前にかけて訳す」方針にしているものが多いです。

### 【訳例】

最近の小説が直木賞を獲得した池井戸潤は岐阜県出身だ。（田中）

最近の小説で直木賞を受賞した池井戸潤さんは岐阜県出身。（DeepL 翻訳ツール）

※DeepL 翻訳は「岐阜県出身だ」とすれば問題なし。「最近の小説で」は「無生物主語」の処理として妥当（第003講）。

<添削>

最近直木賞を取った小説家の池井戸潤は岐阜県出身だ。

🗿 「小説家」という単語はどこにもないので完全な妄想訳。

池井戸潤さんは岐阜県出身だ。彼の最新の小説は直木賞に輝いた。

🗿 このように2文に分けるのもありだが、文中埋め込み型の関係詞節の処理としては一般的ではない。「最新の」は誤り。

池井戸潤は、最近直木賞を受賞して、岐阜県出身だ。

🗿 novel を無視した妄想訳。